

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00934

研究課題名(和文) 歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築

研究課題名(英文) The critical reconstruction of the "sovereignty" concept in historic Europe

研究代表者

古谷 大輔 (Furuya, Daisuke)

大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：30335400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、歴史的ヨーロッパにみられた政治社会の特徴として同時代の状況に応じて変動を繰り返した複合君主政に着目し、君主と人民による権力の共有という観点から、近代のヒストリオグラフィーを支えた主要概念の一つである「主権」について再検討を行った。日本史研究、東洋史研究、西洋政治思想史研究といった隣接諸分野との対話を重ねながら、本研究は、君主政に包括された諸社会集団との関係性に基づいた「内的主権」とヨーロッパ規模での安全/幸福の保証問題に関連付けられた「外的主権」に腑分けすることから、従来の領域性に基づいた一元的な主権理解を批判し、複合君主政成立の軸となった「近世的主権」の実態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、近年の歴史学界で注目されている複合君主政について、その多様な政体を包括する「軸線」を、「主権」をめぐるヨーロッパ規模での関係性の分析から明らかにした点にある。本研究が近世ヨーロッパの実態に即した「主権」の再構築を目指して提唱する「内的主権」と「外的主権」の二元的な分析枠は、学界に対しては一元的な「主権」理解を前提とした従来の国家形成観の刷新を促す。加えて社会に対しては、近代以降に根付いた領域性に基づく閉鎖的な国家観に対して、権利保証と平和構築を求めるヨーロッパ規模での人民の関係性に基づいた開放的な国家観を促す意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：This study focused on "conglomerate monarchies" as one of characteristics of historic European political society, and reexamined "sovereignty" concept, one of the major concepts that have supported the modern historiography, from the perspective on how to share power between monarch and people. By academic dialogue with adjacent fields such as Japanese history, Oriental history, and the history of Western political thought, this study criticized the general understanding of "sovereignty" based on territoriality by dividing it into "internal sovereignty" based on relationships with various social groups encompassed by monarchies, and "external sovereignty" associated with issues about peace on European scale. This study, based on such double dimensional analytical framework, tried to reconstruct one-dimensional understanding of sovereignty based on territoriality, and clarified the reality of "early modern sovereignty," which had been the axis to realize "conglomerate monarchies".

研究分野：史学・ヨーロッパ史・アメリカ史

キーワード：近世史 ヨーロッパ史 国家形成 主権 複合国家 礫岩国家 複合君主政

1. 研究開始当初の背景

(1) 近世ヨーロッパ史研究においては、中世以来の長期的展望に立ちながら歴史的ヨーロッパに独特な政治社会の姿を浮き彫りにし、公共善や共和主義などをキーワードとしながら近代への発展を与件とせずヨーロッパの固有な文脈に即して秩序問題の検討を促す研究が相次いでいた。とりわけ国家形成史の分野では、中世に独特な政治社会の様態と近代以降の国家経営との間のミッシングリンクとして「複合君主政」への注目が集まっていた。

(2) 本研究に集った研究者は、基盤研究(B)「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」(平成25 - 28年度)に集い、「一定の状況で生み出される磁場に応じて可変するポリテイア」という分析枠を共有して、ヨーロッパ各地に見られた「複合君主政」を「礫岩のような政国家」として提唱していた。その成果は『礫岩のようなヨーロッパ』(2016年、山川出版社)として刊行されたが、「礫岩のような国家」を巡って関連諸分野の研究者から寄せられた問題に対応した実証研究の深化が求められていた。

(3) 「礫岩のような国家」論は「複合君主政」の変動局面に焦点を当てた議論だったため、関連諸分野の研究者からは、上記のような変動局面を端的に示す検討対象を比較の補助線としながら、ヨーロッパ諸地域にみられた「複合君主政」の比較研究を深化させる問題が指摘されていた。とりわけ『礫岩のようなヨーロッパ』では「王と政治共同体の統治」と呼ばれる君主と人民との権力の共有状態に「礫岩のような国家」を実現させる鍵を見いだしていたものの、「複合君主政」のもつダイナミズムについて歴史学界に総合的な議論を呼ぶには、より具体的な君主と人民との権力関係を示す事例をもって研究を進めることが求められていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は『礫岩のようなヨーロッパ』で公開された基盤研究(B)「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」の成果と関連諸分野の研究者との対話から得られた知見に基づきながら、「礫岩のような国家」を可変させる磁場として君主と人民との権力関係に着目、とりわけ近世ヨーロッパで錬成されていくことになる「主権」概念のあり方を具体的な比較の補助線としながら、歴史的ヨーロッパの政治社会を特徴付ける「複合君主政」のもつダイナミズムを明らかにすることを目的に企画された。

(2) 我が国におけるヨーロッパの国家観は、近代以降のヒストリオグラフィのなかで一般化されていった領域性を前提とする「主権国家」観の影響が色濃く残っている。「礫岩のような国家」論は、近代以降のヒストリオグラフィの影響下にある領域性に基づいた一元的な国家観を批判するものだったが、本研究はそうした近代主義の影響下にある国家観を支えてきた「主権」概念を批判するために、「複合君主政」のような近世ヨーロッパの政治社会の実態に即した観点から再構築することを念頭に置きながらも企画された。

(3) 以上のような企画の経緯を踏まえ、本研究は「複合君主政」を実現させた君主と人民との権力関係の実態分析を通じ、従来の領域性に基づいた一元的な主権をめぐる解釈を再考することに加え、ヨーロッパ中心主義の解釈に陥らぬよう日本史研究や東洋史研究の知見を仰ぎつつ、歴史的ヨーロッパの個性として「主権」概念の再構築を図り、政治学など隣接諸分野とも対話可能な歴史学研究的「作業場」の回復を提言することを目的としていた。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、「礫岩のような国家」論で注目した「王と政治共同体の支配」と称されたような「複合君主政」における君主と人民との権力の分有状態を前提としながら、ヨーロッパ各地域の「複合君主政」にみられた「正しい統治」を求める議論について比較検討し、各々の「正しい統治」をめぐる議論のなかから近世に錬成された「主権」概念の歴史の実態を析出する作業が進められた。

(2) その際、本研究は、「特定の組織や社会の構成員が主体的に関与する合意形成のシステム」をガバナンスと捉え、近世ヨーロッパに見られた「王と政治共同体の支配」という多層的ガバナンス構造のなかから、各々の「複合君主政」に見られた「主権」の実像を明らかにする方針がとられた。またヨーロッパ中心主義的な従来の「主権」解釈を相対化することも見据えながら、イスラム、中国、日本など非ヨーロッパ世界における秩序問題を巡る意識と比較しながら、世界的な文脈に立って歴史的ヨーロッパにおける主権概念の個性を位置づける作業が進められた。

(3) 以上のような比較研究を実現するために、本研究は、「複合君主政」に関する実証研究の蓄積が厚いイベリア半島、ブリテン諸島、中央ヨーロッパ、バルト海沿岸地域を専門とする研究

者を核とする共同研究体制を組織した。また、今日の欧米の歴史学界において「複合君主政」の議論を個別に展開してきた歴史学者とも連携しながら、各国の歴史学界における知見を日本の歴史学界が「橋渡し」しながら比較研究を進める方針を採った。さらに、「主権」概念の再構築を巡る総合的な議論を歴史学界に喚起する目的に立ち、国内外の歴史学者を招聘するワークショップやシンポジウムにて適宜研究成果を公開する方法を採った。

4. 研究成果

(1) 本研究は、研究分担者や連携研究者による報告と討議を行う研究会合、海外の研究者を加えたワークショップ(2018年3月)、加えて日本西洋史学会や歴史学研究会大会などでのシンポジウムを通じて、従来の一元的な「主権」理解を歴史的ヨーロッパの文脈に即して再構築する試みとして、「内的主権」と「外的主権」の二元的な分析枠を指定しながら、複合君主政における君主と人民との権力の分有状態に即した「近世的主権」のあり方を提示、その最終的な成果については2024年度に論集として整理、刊行する予定である。

(2) 本研究に参画した研究者、ならびに上記のワークショップやシンポジウムを通じて行われた国内外の研究者との対話を通じて、「礫岩のような国家」論で確認されていた論点のなかでも、とりわけ複合君主政を特徴づけた「王と政治共同体の統治」の実態を踏まえ、「主権」概念の批判的再構築の作業は、主権者たる君主と各々の君主政に属した政治的アクターとの間における協働関係の構築過程から再検討されるべきといった比較研究に必要となる共通の視座が確認された。

(3) 近世ヨーロッパは、中世以来のキリスト教理念に包括されながらヨーロッパ規模で広がる王侯貴族間の義務と権利の関係に築かれていた「レスプブリカ・クリスティアナ」が後退を見た時代である。それに伴う「ヨーロッパの内戦」状況に対して各々の地域における君主政が制度と理論の双方から対応を試みられなかで「近世的主権」が情勢されていった点が、本研究の比較分析の出発点となる時代認識として確認された。

(4) 「ヨーロッパの内戦」状況にあって、各地域で統治の最高責任を負う君主は、地域での新たな統治権力の確立と中間的な権力装置の排除を志向する「主権」の絶対性を主張する。これを「内的主権」と称する場合、各々の君主は、外的勢力からの管轄権の主張に対して「内的主権」の統治する範囲への不浸透性が主張し、「外的主権」の主張が醸成される。このように近世ヨーロッパの「内戦」状況を念頭に置いた場合、各地域の複合君主政で錬成された「近世的主権」の内実は「内的主権」問題と「外的主権」問題の二重性をもって議論されていたことが確認された。

(5) 上記の「内的主権」を巡る問題群は、各々の複合君主政において君主と権力を分有した政治アクターとの関係再編に関するものである。君主による「内的主権」の主張は、多様な来歴をもった地方社会や複雑な権利関係を背景に自らの権力を主張する社会集団との交渉を経て複合君主政を実現する。「礫岩のような国家」論で確認されていた多様な政治アクターをひとつの複合君主政に「内包」する局面は、こうした「内的主権」を巡る議論のなかにより明白な形をもって分析できることが確認された。

(6) 他方で「外的主権」を巡る問題群は、「レスプブリカ・クリスティアナ」と呼ばれた包括的なヨーロッパ秩序が瓦解した後に各地域が直面した安全と幸福の保証に関連する問題群の反映である。「礫岩のような国家」論で確認されていた複合君主政の可変モメントのひとつは、君主政の安寧を実現する最高の執行権者として最適な君主の選択を巡る各々の政治アクターの戦略だったが、この可変モメントは「外的主権」を巡る議論のなかに、より明白な姿をもって分析できることが確認された。

(7) 本研究は、近世に「主権」という言葉で語られたこれらの問題群が、君主と人民との関係を再定義し、それが複合君主政のダイナミズムを生み出す動因となることを確認した。しかし本研究では主にこの再定義の過程を「最高の執行権者」とされた君主とその周辺から確認する作業に終始した。他方で近世に言語化された「主権」概念は人民にも横領され、やがて人民による統治の復活を求める「人民主権」論も登場しており、「近世的主権」と「近代的主権」を隔てる分水嶺として人民視点を軸とした「近世的主権」概念の変質に関する検討が、今後求められるべき研究課題となることも確認されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 55
2. 論文標題 16世紀カスティーリャにおける政教関係 国家教会化の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 181-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 内村俊太	4. 巻 56
2. 論文標題 近世スペインにおける政体認識-ペドロ・サラサル・デ・メンドーサの事例-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 内村俊太	4. 巻 13
2. 論文標題 スペイン近世教会による祈願行列-フェリーベ2世期(1556-98年)のトレード教会を事例として-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 内村俊太	4. 巻 57
2. 論文標題 16世紀カスティーリャにおける複合的国家編成 カスティーリャ王冠とバスク、ナバーラ、インディアス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤はる美	4. 巻 5-1
2. 論文標題 「我らが北部の歓待の流儀」？ 宗教改革期イギリスにおける感情と感情共同体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤はる美	4. 巻 1021
2. 論文標題 論争的史料と歴史学ー「1641年反乱の証言録取集」をめぐるー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 1015
2. 論文標題 コメント1:近世帝国と近代国民国家の相互浸潤	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 175-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中本香	4. 巻 45
2. 論文標題 スペイン継承戦争とスペイン独立戦争にみるイスパニア世界の「歴史的国制」主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Estudios Hispánicos	6. 最初と最後の頁 35-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷聡	4. 巻 300
2. 論文標題 比較国制史研究と民科の営み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山哲	4. 巻 1030
2. 論文標題 近世ポーランド・リトアニアにおける「蔵書」ーヨーロッパ東部辺境からみる情報革命	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 16-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 965
2. 論文標題 チャールズ三世の即位と立憲君主制のゆくえ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 133-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 989
2. 論文標題 合同部会：「主権国家」再考 Part 2：コメント1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 196-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 54
2. 論文標題 16世紀後半におけるトレード教会 スペイン近世国制史の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木真	4. 巻 58
2. 論文標題 近世国家の統治システムと軍事	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋史学論集	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木真	4. 巻 35
2. 論文標題 戦争の歴史を考える ヨーロッパ近世・近代を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史学協会年報	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木真	4. 巻 15
2. 論文標題 コメント 前近代社会における武人と軍事	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 42
2. 論文標題 「東欧史」研究を考える 過去・現状・展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 44-55頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 901
2. 論文標題 幕府の『鎖国』政策とその実態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 4-11頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 2021年度
2. 論文標題 トポグラフィーにみる世界の叙法 東西ユーラシアを架橋したスウェーデンの方法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 極東証券寄附講座文献学の世界	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 23
2. 論文標題 「鉄のカーテン」を越えて - スコーネの「国替え」を巡るデンマークとスウェーデンの研究史 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDUN - 北欧研究 -	6. 最初と最後の頁 297 - 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 976
2. 論文標題 君主政の狭間から見る近世の主権国家 - スコーネ住民と「正しき統治」 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 160-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 716
2. 論文標題 近世ヨーロッパの国家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤はる美	4. 巻 976
2. 論文標題 17世紀ブリテン諸島における礫岩国家・主権・法の支配	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 168-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 1
2. 論文標題 「複合国家」「複合王政」「礫岩国家」 - 主権国家の相対化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際関係 - その歴史的考察 (第18回日韓歴史家会議報告書)	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷聡	4. 巻 15
2. 論文標題 近世ドイツにおける裁判と諸地域 - 18世紀帝国最高法院と陪席判事推挙の構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会文化論集(島根大学法文学部紀要)	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 11
2. 論文標題 16世紀におけるアラゴン王国の政体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中本香	4. 巻 43
2. 論文標題 近世末期スペインにおける共同体の権利意識: 革命のなかの革命	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Estudios Hispánicos	6. 最初と最後の頁 101-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山哲	4. 巻 40号
2. 論文標題 多宗派の共和国 近世ポーランド・リトアニア共和国における諸宗派共存体制とその変容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 109-121頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 18号
2. 論文標題 カトリック君主国の都市祭典 フェリーベ2世期のトレードを例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スペイン・ラテンアメリカ美術史研究	6. 最初と最後の頁 15-26頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内村俊太	4. 巻 10号
2. 論文標題 近世スペインの都市年代記における共同体像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 5-20頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山清彦	4. 巻 55号
2. 論文標題 マンジュ (満洲) 王朝としての大清帝国の国制とその歴史的位置 八旗制を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 専修大学法学研究所所報	6. 最初と最後の頁 22-59頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 「礫岩のような国家」に見る「主権」理解の批判的再構築
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会小シンポジウムIII 「礫岩のような国家」に見る「主権」理解の批判的再構築
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内村俊太
2. 発表標題 近世スペインにおける教会統治
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会小シンポジウムIII「礫岩のような国家」に見る「主権」理解の批判的再構築」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 礫岩のような国家と近世的主権ー17世紀イギリスの例からー
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会小シンポジウムIII「礫岩のような国家」に見る「主権」理解の批判的再構築」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木真
2. 発表標題 近世フランスの主権と国家
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会小シンポジウムIII「礫岩のような国家」に見る「主権」理解の批判的再構築」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 コメント:財政軍事国家論を再考する
3. 学会等名 第70回日本西洋史学会大会小シンポジウムIII「財政軍事国家論を再考する」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 歴史から辿るスウェーデン外交・経済の生存戦略
3. 学会等名 鹿島平和研究所小国外交研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渋谷聡
2. 発表標題 人的結合国家」としての近世ドイツ帝国－18世紀帝国最高法院における陪席判事推挙の構造から－
3. 学会等名 第88回西洋史読書会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 趣旨説明：「主権国家再考 Part4:国民国家の再点検」
3. 学会等名 2021年度歴史学研究会大会合同部会「主権国家再考 Part4:国民国家の再点検」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 コメント:近世帝国と近代国民国家の相互浸潤
3. 学会等名 2021年度歴史学研究会大会合同部会「主権国家再考 Part4:国民国家の再点検」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小山哲
2. 発表標題 近世(16~18世紀)の文芸共和国とポーランド
3. 学会等名 日本18世紀学会第43回大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 主権なる概念の歴史性・関係性
3. 学会等名 歴史学研究会大会合同部会:「主権国家」再考 Part 2 翻訳される主権
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 天皇像の歴史を考える:コメント
3. 学会等名 史学会大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Koyama
2. 発表標題 Vicissitudes of the "Noble Republicanism" in contemporary Poland
3. 学会等名 CGSI Weekly Colloquium, Sogang University, Seoul(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：「天皇と皇位継承のコスモロジー 『創られた明治、創られる明治』と『天皇はいかに受け継がれたか』から考える」
3. 学会等名 歴史学研究会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「東欧史」研究を考える 過去・現状・展望
3. 学会等名 東欧史研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 ハンガリー・ジャコパンの「王のいる共和政」思想の生成と展開 「中東欧圏」という共和主義のもうひとつの水脈第69回日本西洋史学会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコパン 」
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコパン 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：合同部会 「主権国家」再考 Part 2 翻訳される主権
3. 学会等名 歴史学研究会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya NAKAZAWA
2. 発表標題 Slovak Nation as one of the Limbs of Sacra Corona 1; Invoking Traditional Organic Metaphor for Modern Nation-Building
3. 学会等名 WIAS Seminar Series: Potentiality of the New Notion of the “Global History”: Waseda Symposium on European History Part 1 “Organic Metaphors and the State in Medieval and Modern Europe” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 コメント: 「東欧」から、「近世・近代」から、考える
3. 学会等名 2019年度現代史研究会大会「平成時代の現代史研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 世襲原理と選挙原理の王位継承 マリア=テレジア、表象、ジェンダー
3. 学会等名 ジェンダー史学会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木真
2. 発表標題 シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」コメント
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第15回大会シンポジウム「世界史の中の武人 越境と帝国秩序」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木真
2. 発表標題 戦争の「歴史」を考える ヨーロッパ近世・近代を中心に
3. 学会等名 2019年度日本歴史学協会総会公開講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木真
2. 発表標題 近世国家の統治システムと軍事：シンポジウム「近世ヨーロッパにおける国家の統治構造と軍事」
3. 学会等名 九州西洋史学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 混合政体の更新と「ジャコバンの王国」 スウェーデン王国における「革命」の経験
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会大会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Furuya
2. 発表標題 History-Education at Universities of Sweden and "Freedom of Choice "
3. 学会等名 International Symposium by JSPS Global Initiatives, "Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村直樹
2. 発表標題 九州諸藩から見る『長崎・出島』
3. 学会等名 長崎考古学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 君主政の狭間から見る近世的主権国家 - スコーネ住民と「正しき統治」 -
3. 学会等名 歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「主権国家」再考（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 日本における北欧史研究の回顧と展望
3. 学会等名 International Workshop: Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century at Stockholm University, Sweden（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Furuya
2. 発表標題 Foermedlarna som kopplade mellan Asien och Europa: De svenska erfarenheterna i det tidigmoderna Japan
3. 学会等名 International Workshop: Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century at Stockholm University, Sweden（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Furuya
2. 発表標題 Swedish experience of "revolution" as a renewal of "monarchia mixta"
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤はる美
2. 発表標題 17世紀ブリテン諸島における礫岩国家・主権・法の支配
3. 学会等名 歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「主権国家」再考(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Shibutani
2. 発表標題 Gerichte und Regionen im fruehneuzeitlichen Reich. Kameralsschriften und Beisitzer
3. 学会等名 International Commission for the History of representative and parliamentary Institutions (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論—主権・国民・連邦制
3. 学会等名 早稲田大学史学会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「王のいる共和政」から「王のいない共和政」へーハンガリー・ジャコバン主義にみる共和主義の多様性
3. 学会等名 近現代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 チェコスロヴァキア主義の起源ー選挙王政の祖国、信仰の祖国、民族の祖国
3. 学会等名 第3回ボヘミア・フォーラム「チェコスロヴァキア共和国建国100周年、共同国家の70年」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 主権・国民・連邦制ーハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論から考える
3. 学会等名 早稲田大学ロシア研究所研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuya Nakazawa
2. 発表標題 Creation of the thought of “Republic with King” of the early Hungarian Jacobins, 1793
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiko Kondo
2. 発表標題 What do we expect from Jacobin historiography?
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 近世ヨーロッパにおける主権と主権国家
3. 学会等名 立正大学史学会(立正大学)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小山哲
2. 発表標題 多宗派の共和国 近世ポーランド・リトアニア共和国における諸宗派共存体制とその変容
3. 学会等名 東欧史研究会2017年度大会(明治大学)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Koyama
2. 発表標題 The Image of the Polish-Lithuanian Commonwealth from the Perspective of Japanese Historiography
3. 学会等名 The Third Congress of International Researchers of Polish History (The Jagiellonian University, Krakow)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Daisuke Furuya
2. 発表標題 Intermediators who connected between Europe and Asia: "Swedish" experiences in the early modern East Asia"
3. 学会等名 Global Nodes, Networks, Orders: Three Global History Workshops on Transformative Connectivity (University of Leiden, Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 近世 / 近代の時代区分をめぐるミッシングリンク ローカルな問題とグローバルな問題
3. 学会等名 2017年度西洋史読書会大会 (京都大学) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 近世の北欧国家
3. 学会等名 2017年度神奈川県高等学校教科研究会 (神奈川県立横浜商業高校) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉山清彦
2. 発表標題 大清帝国の多民族統治と八旗制 広域支配の制度と構造
3. 学会等名 ICUアジア文化研究所・JFE21世紀財団共催シンポジウム「歴史の智恵をどう活かすか? 21世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究」(国際基督教大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirotake Maeda
2. 発表標題 Voices of Caucasians at the Safavid court: life and activities of Parsadan Gorgijanidze
3. 学会等名 Recovering 'Lost Voices': The Role and Depiction of Iranian/ Persianate Subalterns from the 13th Century to the Modern Period (University of Edinburgh, Edinburgh) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirotake Maeda
2. 発表標題 Georgian archival sources on the multi-faceted history of tavad-aznauris in Georgia
3. 学会等名 Archival Studies, Source Studies; Trends and Challenges (National Archive of Georgia, Tbilisi) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計26件

1. 著者名 内村俊太「16、17世紀スペインにおける政教関係－複合君主政と国家教会化－」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 伊達聖伸編『ヨーロッパの世俗と宗教』	

1. 著者名 内村俊太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 347
3. 書名 上智大学外国語学部ヨーロッパ研究コース編『新しいヨーロッパ学』	

1. 著者名 後藤はる美「ブリテン諸島における革命」	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 木畑洋一、安村直己編『主権国家と革命 15～18世紀』	

1. 著者名 古谷大輔、中澤達哉、小山哲、後藤はる美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 金澤周作監修、藤井崇、青谷秀紀、古谷大輔、坂本優一郎、小野沢透編『論点・西洋史学』	

1. 著者名 佐佐木真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 天津人民出版社	5. 総ページ数 407
3. 書名 図説法国史	

1. 著者名 杉山清彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 300
3. 書名 佐川英治、杉山清彦『中国と東部ユーラシアの歴史』	

1. 著者名 木村直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 268
3. 書名 杉森哲也編『日本の近世』	

1. 著者名 近藤和彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 96
3. 書名 近世ヨーロッパ	

1. 著者名 内村俊太（立石博高編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 スペイン帝国と複合君主政	

1. 著者名 佐々木真（剣持久木編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 212
3. 書名 よくわかるフランス近現代史	

1. 著者名 杉山清彦（小松久男、荒川正晴、岡洋樹編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 420
3. 書名 中央ユーラシア史研究入門	

1. 著者名 木村直樹、牧原成征編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 294
3. 書名 十七世紀日本の秩序形成	

1. 著者名 前田弘毅（小松久男、荒川正晴、岡洋樹編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 420
3. 書名 中央ユーラシア史研究入門	

1. 著者名 Hirotake Maeda (Abbas Amanat and Assef Ashraf eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 258
3. 書名 The Persianate World: Rethinking a Shared Sphere	

1. 著者名 佐々木真	4. 発行年 2018年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 152
3. 書名 『図説 ルイ14世』	

1. 著者名 佐々木 真	4. 発行年 2022年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 192
3. 書名 図説 フランスの歴史 増補二版	

1. 著者名 佐々木真	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 剣持久木編『よくわかるフランス近現代史』	

1. 著者名 古谷大輔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善書店	5. 総ページ数 650
3. 書名 北欧文化協会, バルト=スカンディナヴィア研究会, 北欧建築・デザイン協会編『北欧文化事典』	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂	5. 総ページ数 303
3. 書名 歴史学研究会編 『第4次 現代歴史学の成果と課題』第2巻「世界史像の再構成」	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 井内敏夫編 『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	後藤 はる美 (Goto Harumi) (00540379)	東洋大学・文学部・准教授 (32663)	
研究分担者	渋谷 聡 (Shibutani Akira) (30273915)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授 (15201)	
研究分担者	中本 香 (Nakamoto Kaori) (30324875)	大阪大学・人文学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中澤 達哉 (Nakazawa Tatsuya) (60350378)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	佐々木 真 (Sasaki Makoto) (70265966)	駒澤大学・文学部・教授 (32617)	
研究分担者	小山 哲 (Koyama Satoshi) (80215425)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	近藤 和彦 (Kondo Kazuhiko) (90011387)	立正大学・人文科学研究科・研究員 (32687)	
研究分担者	内村 俊太 (Uchimura Shunta) (90710848)	上智大学・外国語学部・准教授 (32621)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木村 直樹 (Kimura Naoki) (40323662)	長崎大学・多文化社会学部・教授 (17301)	
研究協力者	杉山 清彦 (Sugiyama Kiyohiko) (80379213)	東京大学・総合文化研究科・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	前田 弘毅 (Maeda Hirotake) (90374701)	東京都立大学・人文社会学部・教授 (22604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
Peoples and Revolutions: Rethinking Seventeenth-Century British History-2- (J・モ リル教授、M・ブラディック教授来日セミナー)	2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関